

事例 14

～地域資源循環型施設園芸団地の形成へ向けた事業化事例～ 木質バイオマスの導入による森林資源の有効活用

■事業及び発電設備の概要

J A宮崎中央管内は、以前より施設園芸を主体とした産地を形成し、発展してきた。しかしながら近年、高齢化等による農家の減少で今後の産地の維持・発展が危惧されている。

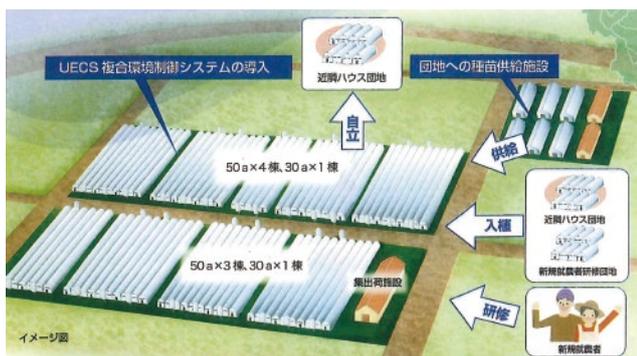
そこで、施設の規模拡大と団地化・集約化による生産性の向上や、高度な環境制御技術を導入した施設園芸の新たな展開、さらには施設園芸用燃料を化石燃料依存から脱却する為、木質バイオマスへエネルギー転換など、産地構造を転換・強化する必要があった。このため、先端技術を用いた大規模施設園芸団地を整備し、地域への波及を目指すとともに、団地の効率的な運営や課題解決のための民間企業や生産者・関係機関・団体等からなるコンソーシアムを設立した。



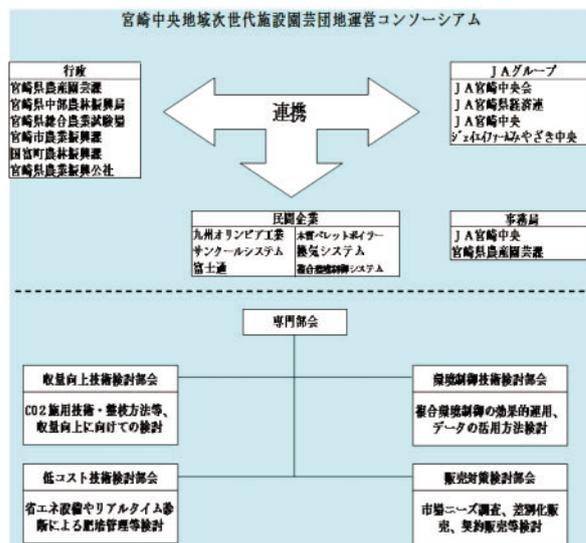
木質ペレット暖房機

■事業実施上の課題

燃油価格の高騰や乱高下の影響により、農家の経営を圧迫することが課題であり、宮崎県においては未利用の森林資源の存在が課題であった。これらの課題に加え、地球温暖化対策への取組を考えていた。また、後継者問題もあり、最適な栽培環境を構築して、生産量の拡大を図っていく必要に迫られていた。



■事業の実施体制



■利用した施策と内容

- 「次世代施設園芸導入加速化支援事業」
- ・ジェイエイファームが中心となり、4.1haのハウスできゅうりとピーマンを栽培
 - ・エネルギーは木質ペレットを活用
 - ・高度な ICT 技術を活用した高生産性の栽培管理システムの構築
 - ・JAの担い手育成システムと連携し大規模・集約化のモデルとして地域へ波及

■施策を利用したことによる事業の成果

施策の利用により、地域資源（木質ペレット）を活用したエネルギー転換による環境負荷低減がもたらされた。また、当施策が進捗していくことにより、①生産基盤の強化・規模拡大による生産性の向上、②地域資源循環による地域経済の活性化といった効果が期待される。

■問い合わせ先

宮崎中央農業協同組合 営農部 営農企画課
住所：宮崎県宮崎市花ヶ島町鴨の丸829-1
URL：<http://chuou.ja-miyazaki.jp/>